

牟礼

数世紀にわたって、牟礼の町と隣町の庵治は、五剣山から採掘される高品質の花崗岩で有名だった。今でも、牟礼は石工、彫刻、芸術との強いつながりを保っている。この地域には、高松市石の民俗資料館をはじめとするいくつかの美術館や、イサム・ノグチ（1904-1988）やジョージ・ナカシマ（1905-1990）などの芸術家やデザイナーを紹介する施設がある。この2人は牟礼で活躍し、多くの作品を生み出した。

また、1185年に源氏と平氏が戦った屋島の戦いでも、牟礼は重要な役割を果たした。平氏は屋島に要塞化された仮の宮殿を持ち、それを守るために大規模な船団を持っていた。しかし、源氏は海岸で火を焚いて大軍が来たように見せかけ、平氏の船を遠ざけた。船がいなくなると、源氏は牟礼を経由して陸路で攻めてきた。

この戦いは源氏の決定的な勝利に終わり、戦いの重要な場面が牟礼には残されている。例えば「祈り岩」は、源氏の兵士である那須与一（伝1169年～1232年）が、退却する平氏の船に向かって矢を放つ前に祈りを捧げた場所を示している。船の中には女官がいて、棒の先につけた扇を振って源氏軍を挑発していたので、与一はその扇を狙った。矢は奇跡的に的に当たり、与一の武芸は伝説となった。彼が矢を放った場所には、「駒立岩」がある。

牟礼はかつて独立した町だったが、今は高松市の一部となっている。屋島から相引川で隔てられている。